

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
～特別支援教育の考え方を基盤にして～ 1 確かな学力の育成を図る。 2 人権感覚豊かな人間関係づくりを推進する。 3 特別支援教育の充実を図る。 ○児童の共通理解ときめ細かな支援を充実させる。 4 連携を進める。 ○中学校ブロックで学力向上や生徒指導等に取組む。	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【   】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 C 】 年度末【   】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【   】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 C 】 年度末【   】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 D 】 年度末【   】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 C 】 年度末【   】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」  
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」  
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
全国 ○国語について Aは全国・県と比べてやや下回っているが、Bは全国を上回っている。 領域別ではAで「話す・聞く能力」が全国に対して大きく上回っているが、「言語についての知識・理解・技能」の文法分野は下回っている。 ○算数について Aは全国をやや下回っているが、Bは全国を大いに上回っている。 領域別ではAで「数と計算」、Bでは「図形」や「数量関係」がやや下回っている。 ○理科について 全国・県と比べてやや上回っている。 県 ○3年について 全国・県と比べて国語・算数ともに下回っている。国語は「書く能力」が弱い。 ○4年について 全国・県と比べて国語・算数ともに下回っている。国語は「書く能力」が弱い。 ○5年について 国語・算数ともに目標値より大きく下回っている。基礎的な問題でその傾向は顕著である。	○地域行事やボランティア活動に参加している児童の割合が高い。 ○朝食をきちんと摂っていたり、毎日同じ時間に起床・就寝したりしている児童の割合は全国・県と比較して高い。 ○宿題をきちんとしている児童は90%を超えているが、自主学習を毎日している児童は65%程度である。 ○1日の学習時間が1時間以上の児童は県に対して少ない。 ○読書時間については、全くない児童の割合は全国・県とほぼ同じであるが、1日当たり30分以上行う児童の割合は少ない。 ○「自分には、良いところがあると思いますか。」の質問に対して肯定的な回答が全国・県に対して低い。 ○「家庭学習チャレンジ」の調査結果、メディア等の視聴時間1日1時間以内は学年が大きくなるにつれて守れていない傾向がある。 ○「あいさつ」の項目については、県平均より低い。委員会を中心にあいさつ運動に取り組んでいるが、この運動がさらに学校全体に広げよう指導・奨励していきたい。

成果 課題

成果	課題
○データベースを活用した放課後学習等の成果があり、漢字の読みや書き取りについてはほぼできている。今後も放課後学習や朝学習の内容の充実を図りたい。 ○たしかめテストの結果と比較して、6年生は基礎基本分野だけでなく応用分野でも得点を上げている。日々の授業に落ち着いて取り組めていたり、説教的に自主学習や週末課題(Tチャレ)に取り組めた成果であると考えている。 ○全職員で調査問題を解いたり、調査結果を分析したりして、各学年で定着させておく内容(特に低学年で徹底指導しておくこと)や伸ばしたい力を共通理解した。	○昨年度から引き続き「書くこと」が苦手なところがあり、文章を要約したり、まとめたりする力が弱い。 ○メディアとのつきあい方や読書、あいさつ等に家庭での生活習慣に差が見られる。 ○宿題をきちんとしている児童の割合は多いが、自主学習に毎日取り組む児童がやや少ないのでこの割合を向上させたい。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
引き続き授業改善を行い、話し合い活動の充実や表現力の向上を目指す。	年度内	すべての教科領域で深まりのある話し合い活動を意図的に行う。授業で「書く活動」を積極的に取り入れる。	校内研修で全員公開授業を行い、めざすべき授業について検証していく。	担任は国語科で、専科は担当教科で公開授業を行っている。12月現在、8割の教員で実施済みで、3学期には全員の公開授業が終了予定。	B			
基礎基本の徹底。	年度内	全国・県学力調査の基礎基本問題で、全国平均以上をめざす。	問題データベースを活用し、日々の授業の復習や宿題、補充学習に積極的に取り入れる。(漢字はつけよい、算数一直線)全校で漢字検定に挑戦すべく、漢字学習に取り組む。	問題データベースを活用し、漢字・計算学習に取り組んでいる。1/30には校内で漢字検定を実施し、350名以上の児童・教員が参加する。また、3学期には2年生を対象に指導要領が達成目標を出す予定である。就チェックの結果を結果表を付けて1・2年生でけんけんくぐりプリントを活用しスキルアップを図る。	A			
家庭学習の定着と充実	年度内	宿題提出率100パーセントをめざす。	担任の日頃の声かけや学級通信・学級懇話会で児童や保護者に呼びかけ、家庭学習の習慣を小学校低学年の段階で徹底する。また、自主学習を奨励し、自主学習に日々取り組む児童の割合を増加させるようにする。	中道中の定期考査に合わせて家庭学習チャレンジシートを行い、宿題提出率は上がっているが目標である100%にはなっていない。また、3学期は自主学習に連んで取り組むよう指導する。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」  
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組 保護者・地域へ理解・協力を求めること

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○チャームスタートの徹底、落ち着いて学習できる教室環境づくりのを共通目標にして取り組む。 ○中学校区で校長や教頭、教務主任、生徒指導主事、養護教諭、事務などで定期的に部会を持ち共通理解を図り課題を共有し、情報交換を行う。 ○引き続き中学校区で行うメディアや家庭学習促進の取組(家庭学習チャレンジ)を行う。 ○小中間で授業公開とともに、児童生徒の情報交換を行う。	○家庭学習について通信・懇話等で保護者に説明したり、児童によい例を紹介したりして、主目的の学習時間を増やす。 ○メディアの取り組みの協力を依頼するとともに、あわせて家庭学習時間調査を行い、学年に応じた家庭学習時間が習慣づくよう協力してもらう。 ○読み聞かせ等の学校支援ボランティア事業で、学習・環境・安全支援で地域人材を活用し、活動を通して地域と学校をつなぐ地域の中の学校として子どもを育てていけるようにする。 ○5・6年生の児童と全保護者を対象にスマホの望ましい使い方の講演会を講師を招いて行う。